

Company Profile



世界へ羽ばたく「 *innovative spirit* 」

「 *innovative spirit* 」は、
当社の想いを強く宣言する言葉です。

すべてのはじまりは、
「 *innovative spirit* 」
これまでの歴史が生んだ数々の革新的技術、
創造へ挑戦し続ける精神が私たちの原動力です。

- ・電子部品実装ロボット
- ・クリームはんだ印刷機

ロボットソリューション
事業

FUJI robots lead the way

- ・工作機械
(NC旋盤・複合加工機・専用機)

マシンツール事業

新事業

- ・小型多関節ロボット
- ・大気圧プラズマユニット
- ・移乗サポートロボット
- ・パブリックストックカシステム

数字でわかる F U J I



創業

(1959年4月)

65年目



従業員数

(2023年3月末時点)

2,848名



売上高

(2023年3月期)

1,533億円



海外売上高比率

(2023年3月期)

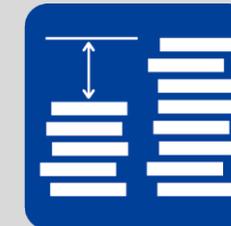
90%



営業利益率

(2023年3月期)

17.7%



ROE

(2023年3月期)

9.4%



時価総額

(2023年3月末時点)

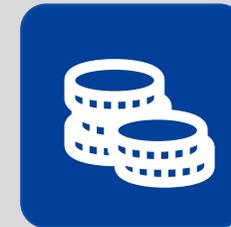
2,155億円



自己資本比率

(2023年3月末時点)

89%



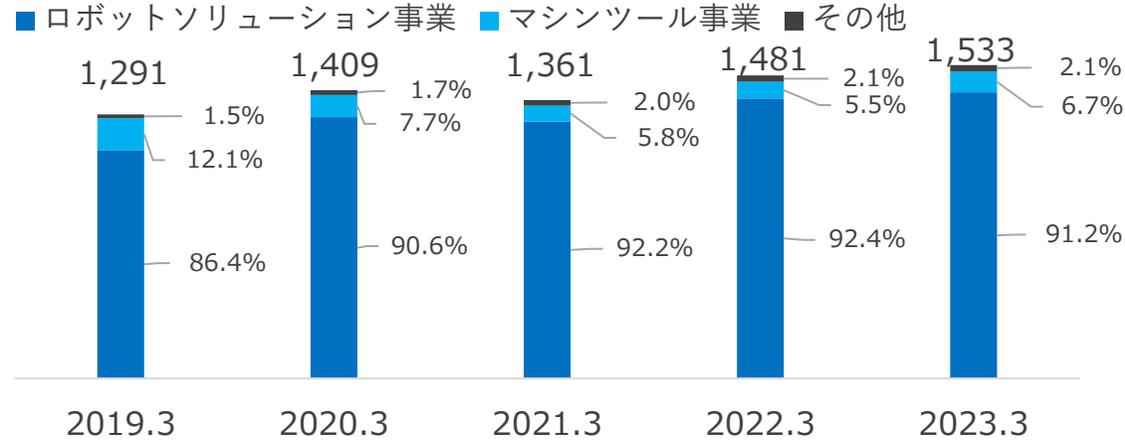
配当性向

(2023年3月期)

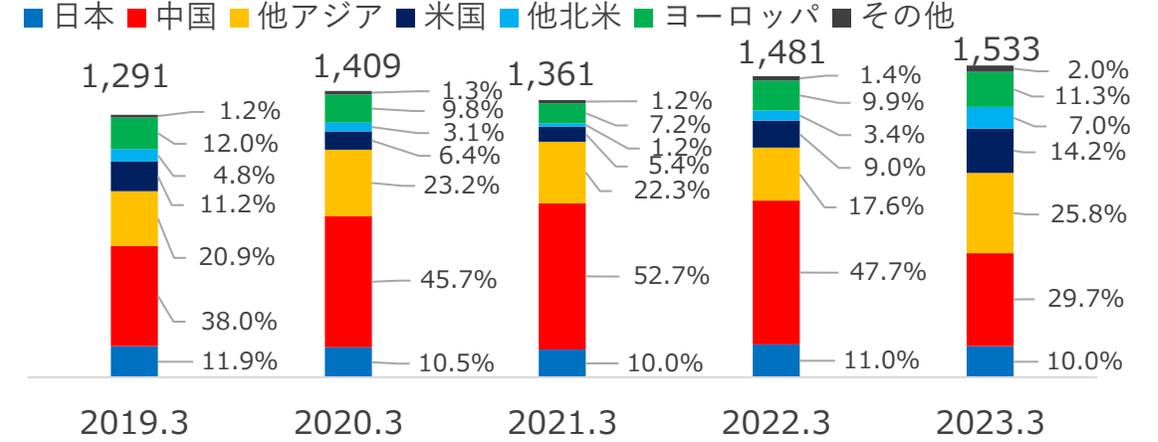
37.7%

数字でわかるFUJI

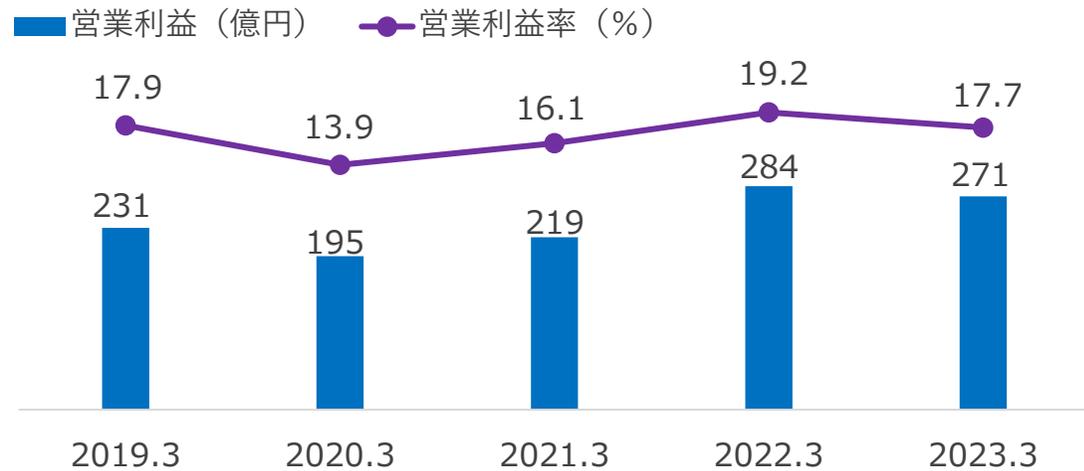
セグメント別売上高(億円)



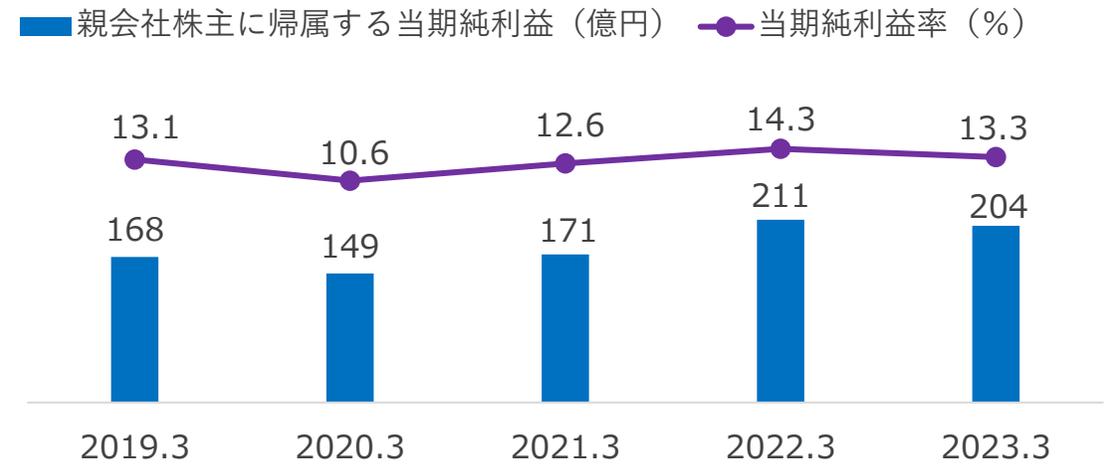
地域別売上高 (億円)



営業利益



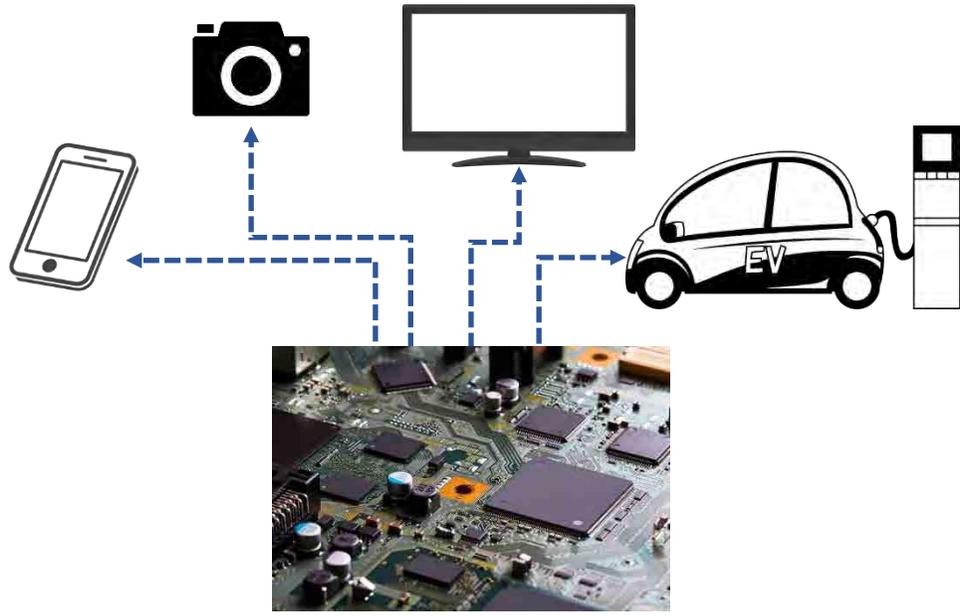
親会社株主に帰属する当期純利益





常に世界 No. 1 技術を追求し、 エレクトロニクス製品の進化に貢献

自動車や家電製品、通信端末など、私たちの暮らしはさまざまな電子製品に囲まれています。これらの製造に必要不可欠なのが、プリント基板に電子部品を装着する電子部品実装ロボットです。FUJIは、世界初、世界一の技術で進化するものづくりを支えています。



ロボットソリューション事業
Robotic Solutions Division



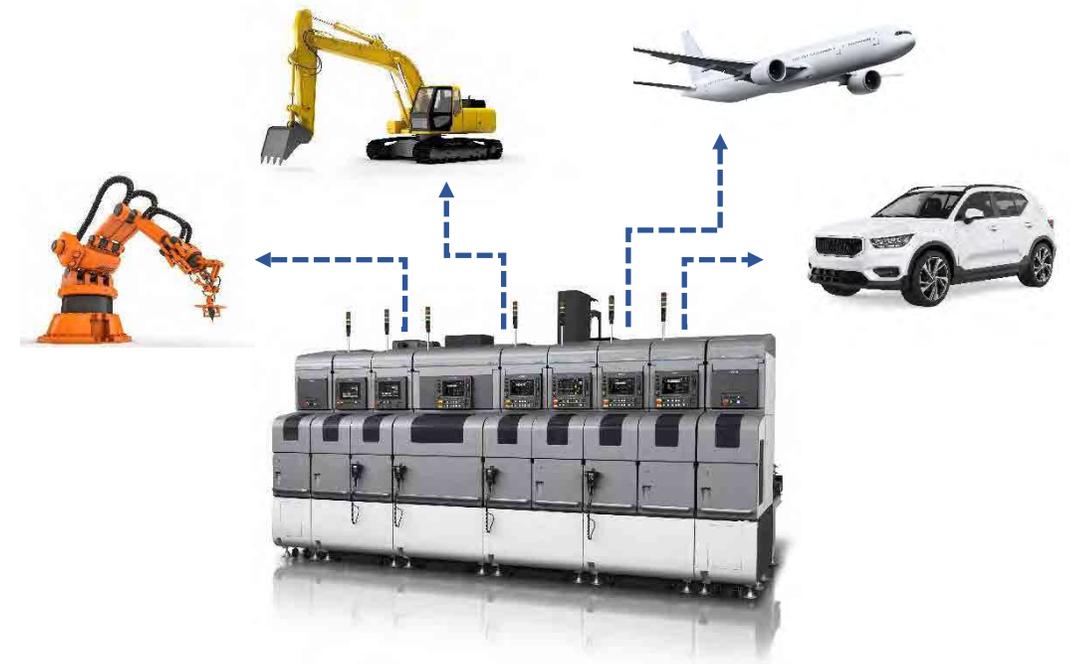


世界中のものづくりの現場を 高度な技術力で支え続けるマザーマシン

自動車や産業用機械などを構成する高精度な加工部品。

これらを作り出すために、金属素材を切削・加工する役割を担うのが「マザーマシン」とも呼ばれる工作機械です。

FUJIでは、主にNC旋盤を中心とした工作機械を開発・製造・販売しています。



マシンツール事業

Machine Tools Division



蓄積した技術を礎に、新たな領域へ

電子部品実装ロボットや工作機械の開発・製造で磨き上げたノウハウを活かして、積極的に新分野を開拓。

小型多関節ロボットや大気圧プラズマユニット、介護分野の移乗サポートロボット、物流分野のパブリックストックカシステムなど、新たなFUJIブランドが誕生し、いずれも高い評価を得ています。

2017年には「FUJI Innovation Lab.」をシリコンバレーに開設し、研究開発体制を強化。

時代のニーズを敏感にキャッチして、次世代技術・製品の開発にチャレンジしていきます。

新事業

New Business Development

開発センター

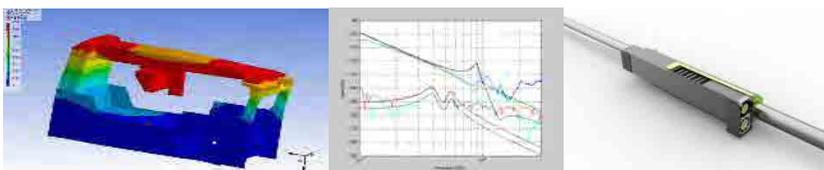
FUJI製品の競争力を高める最先端の要素技術開発、
そして、新たな市場を見据えた新規事業の技術開発を行っています。

要素技術開発

高速・高精度技術

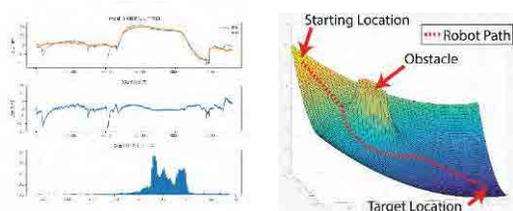
高速・高精度な動作を実現する開発を行っています。

- ・高剛性メカ構造を実現するCAE解析技術
- ・高速位置決めを実現する制振制御サーボ技術
- ・高負荷動作を実現する高性能リニアモータの開発



AI開発

データアナリティクス・機械学習によって、
自社装置の最適制御や予知保全を実現します。



新規事業開発

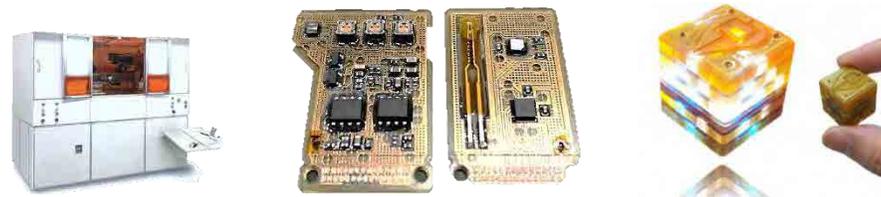
ロボティクス技術開発

モーションからビジョンまで
広い範囲をカバーするロボティクス
技術を開発しています。



電子機器製造3Dプリンター開発 (FPM-Trinity)

自動で電子機器が製造可能な3Dプリンター装置です。
小型立体形状の電子機器や、カスタム品の
製造など、新たな要求に対応が可能です。



シャフトリニア製品

低リップルで高い追従性を
有したリニアモータを外販
しています。



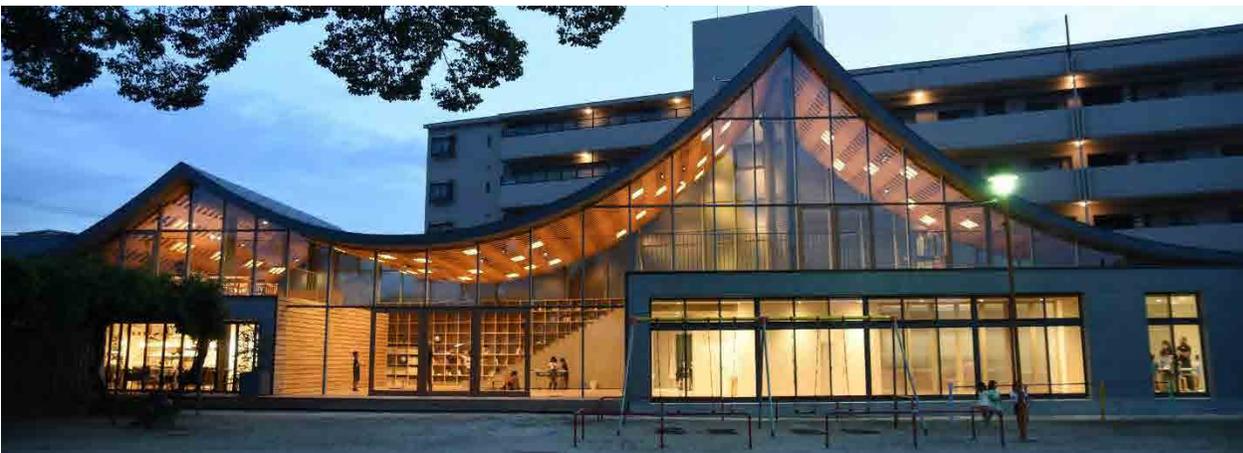
プラットフォーム開発

(e-Sys)

e-Sysは設備機器のマーケットと
デジタルツイン環境を備え、
ロボットSlerの自動化構築を
支援します。



 **THANK** 



“かがく”を“えいご”でまなぶ



地域の皆様との交流の場



新規事業創出の活動



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界の繁栄を志す17の目標



さて私の目指す会社の方向ですが、今まで同様、自動化技術の裾野を広げロボット企業としての確固たる地位を築き、売上2,000億円を目指します。RS事業本部ではマウンターからその前後工程である、半導体実装、挿入機、更には組立工程用の多関節ロボットとバリエーションを増やしてきました。MT事業においても搬送ロボットを組み込んだドルフィンを市場に投入してきました。両事業とも、これからは製品販売だけではなく、システム、サービスにも今まで以上に力を入れ、真のイノベーションを顧客に提供したいと考えます。昨年4月に社名をFUJIに変更した意味をもう一度噛み締めて頂きたいと思います。

今までは設備産業向けの装置が主体だったので、景気の変動には敏感です。今後は医療、食品、物流等、他分野への参入が欠かせないと考えます。幸いFUJIにはHug, Quist等、芽の出始めた商品もあります。更にイノベーションラボ、産学連携、関連企業との技術提携等を活用しながら第3、第4の柱の育成に努める所存です。

ところで、目指す方向を実現するために大事なのは何と言っても製品競争力の強化です。コーポレートスローガンの“お客様に感動を”は、お客様の予測をはるかに上回る製品、サービスの提供があればこそ、成り立つと思います。また私の信条として“不可能を可能にする”があります。まさにそれを目の当たりにした時に人は感動するのではないのでしょうか。しかし、そのためにやみくもに行動すれば良いものではありません。

2019年7月1日

リサイクルロボット

再生路盤材製造工程の現状



- 作業者のストレス
 - －騒音（隣の人声が聞こえない）
 - －振動（常に足元が揺れている）
 - －粉塵（顔を拭くと黒くなる・・・）
- 絶対にやりたくない仕事！！
- 何とかなしたい！！

リサイクル分別ロボット



2021年11月12日
株式会社FUJI

リサイクル分別ロボットを前田道路株式会社に試験導入

～前田道路株式会社 名古屋合材工場にて異物除去の実証実験を開始～

株式会社FUJI(本社:愛知県知立市、代表取締役社長:須原 信介、以下FUJI)は、リサイクル分別ロボットを前田道路株式会社(本店:東京都品川区、代表取締役社長:今泉 保彦)の名古屋合材工場に試験導入し、がれき類に含まれる異物の自動除去技術の実証実験を2021年9月から開始しました。

社会インフラとして人々の暮らしに欠かせない道路や建物の材料は、解体後にかれき類の大部分がリサイクルされており、現状は製品としてリサイクルしない異物(金属や木材等)の一部は手作業で取り除かれており、労働力不足や作業環境の改善が課題となっております。

FUJIはロボットカンパニーとして培ったノウハウを活用し、異物をAI画像認識し自動除去するリサイクル分別ロボットを開発いたしました。通常の画像認識では判別が難しい異物を認識することができ、コンベアを停止させることなく異物を取り除きます。本実証実験後に複数の工場へ展開し、製品販売を開始いたします。FUJIは、製品の製造工程の環境改善を通じて持続可能な社会の実現に貢献します。

■試験導入先概要

会社名 : 前田道路株式会社 中部支店 名古屋合材工場
所在地 : 〒470-0207 愛知県みよし市福谷町下り松 16
開始日 : 2021年9月13日

■会社概要

会社名 : 株式会社FUJI
代表者 : 代表取締役社長 須原 信介
所在地 : 〒472-8686 愛知県知立市山町茶碓山 19
設立 : 1959年4月
事業内容 : 電子部品実装ロボットならびに工作機械の製造、販売
資本金 : 5,878百万円
URL : <https://www.fuji.co.jp/>

■本件に関するお問合せ

イノベーション推進部 第1課 河口 TEL: 050-3174-0743
Email: ko.kawaguchi@fuji.co.jp



移載ソリューション

移載ソリューション



2022年12月20日

株式会社FUJI

店舗内におけるカゴ車自動搬送の実証実験を開始

～営業終了後の時間を有効活用し、自動で商品を陳列棚まで搬送～

株式会社FUJI(本社：愛知県知立市、代表取締役会長兼社長：曾我 信之、以下「FUJI」)は、ロボットカンパニーとして培ったノウハウを活用し、店舗内の売り場のレイアウトを変更せず、現在運用中の複数種類ある商品運搬用台車(以下「カゴ車」)をそのまま利用して、カゴ車を店舗内の目的地点まで自動で搬送するソリューションを開発しました。株式会社カインズの一部店舗にて、実現可能性と機能性の確認を目的とした実証実験を2022年7月から行っています。



<営業終了後の店内にてカゴ車を搬送するロボットの様子>

小売業界では、物流センターなどから商品を店舗に配送しています。これら配送の自動化として、トラックの自動運転など様々な先進的な取り組みが社会実装され始めています。一方、店舗内では商品を各棚へ陳列するまでに、多くの人の手が介在しています。店舗スタッフには顧客体験(CX)の最大化に注力して欲しいため、カゴ車を陳列棚近くまで運ぶ作業は、自動化されるべきとFUJIは考えました。

本ソリューションでは納入されたカゴ車にタグを貼り付けておくだけで、ロボットが自動でカゴ車を認識し、店舗内の任意の目的地点へ搬送します。閉店後の真っ暗な店内で自動搬送することで、営業終了後の店舗に生産性を付与します。



<https://www.fujinnovation.com/rally>

移載ソリューション NRF2023



ヘルスケアDX

■ 困りごと

遠くに住む高齢の親がどのような生活をしているのか、家族は知ることができません。また、何かあったときに家族は親を助けることができずに心配しています。



見守りソリューション

teracoyaTHANK × 置き去り防止システム

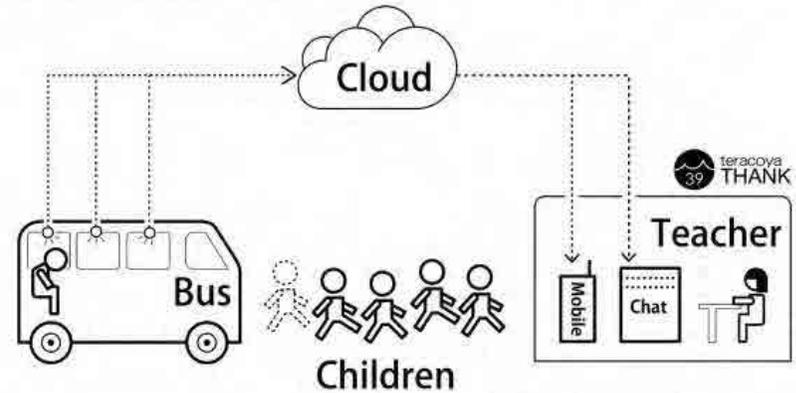


2022年12月22日

株式会社FUJI

FUJIが運営するイングリッシュ・アフタースクール「teracoyaTHANK」の送迎車両で自社開発の『置き去り防止システム』の実証実験を開始

株式会社FUJI（本社：愛知県知立市、代表取締役会長兼社長：曾我 信之、以下「FUJI」）は、自社で運営するイングリッシュ・アフタースクール「teracoyaTHANK」の生徒児童送迎車両に、同じく自社で開発した『置き去り防止システム』を搭載、12月より同システムの実証実験を開始しました。



<置き去り防止システムのしくみ>



<送迎車両>



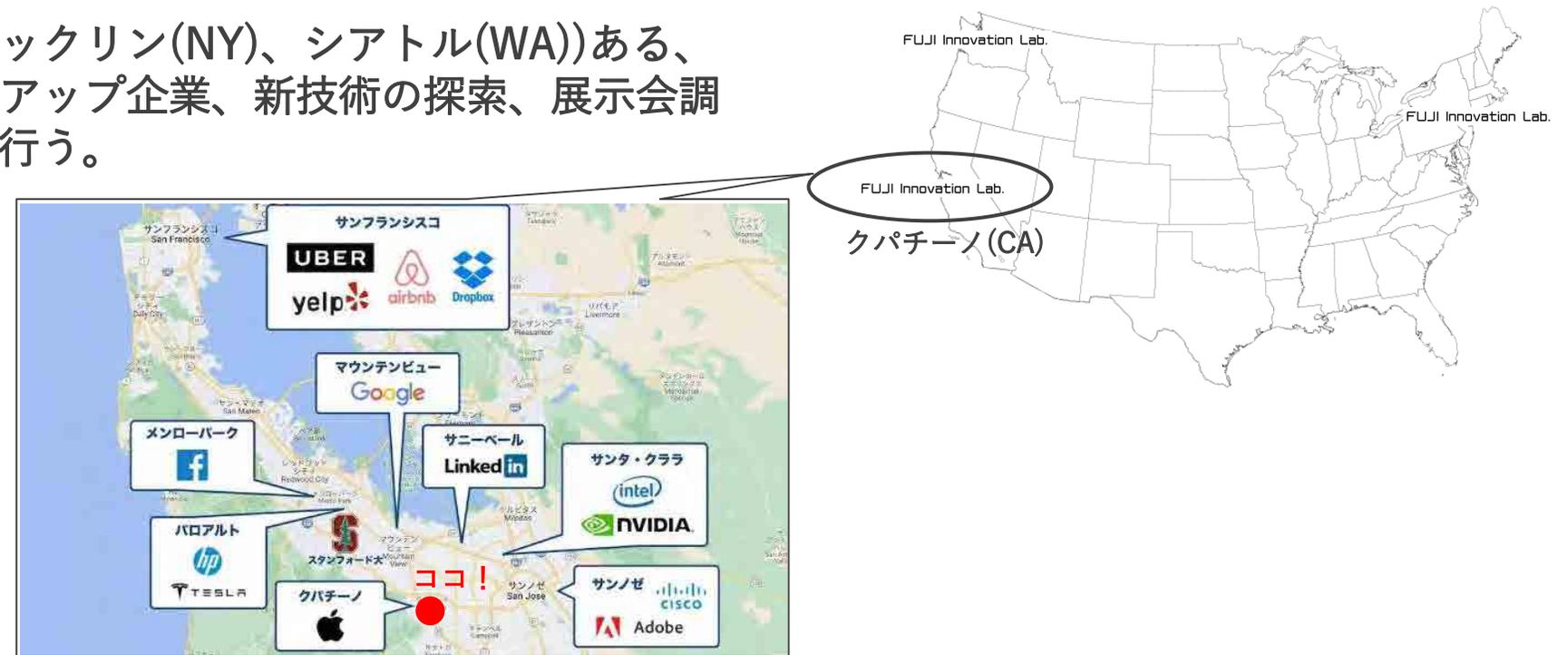
<車内画像>

FIL (FUJI Innovation Lab.)

◆ FUJI (FUJI Innovation Lab.)

FUJI Innovation Lab.

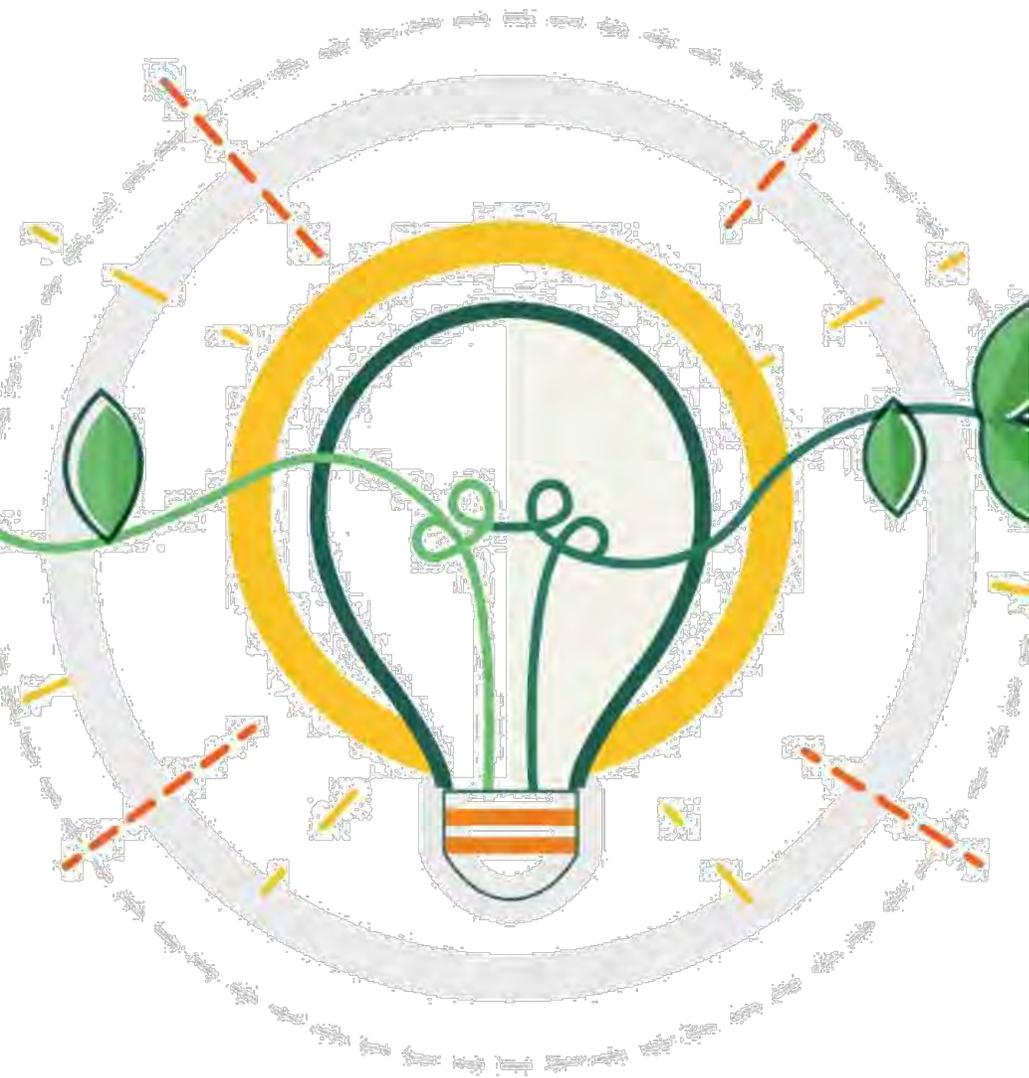
北米に3拠点(クパチーノ(CA)、ブルックリン(NY)、シアトル(WA))ある、FUJIのリーサーチオフィス。スタートアップ企業、新技術の探索、展示会調査、マーケティング調査等の活動を行う。



◆ 自発的成長機会の促進活動

自らの成長機会のため、社外の環境を積極的に活用。意欲によっては、FILでの武者修行や海外のセミナーにも参加可能。





オープンイノベーション の実例紹介

F U J I がリテール向けAMRの開発に取り組んだ経緯と、
オープンイノベーションの実例を紹介します。



ロボティクスに強みがあり

F U J I はこれまで培ってきたロボティクス分野の技術に強みを持っています。

自社開発のロボット技術を活かし、社会課題を解決するコンセプト機の開発に踏み切った

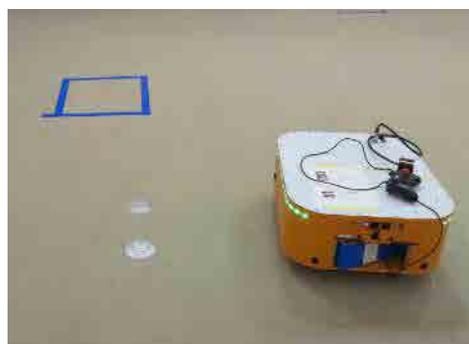


今に繋がったオープンイノベーションの事例

1

海外AMR

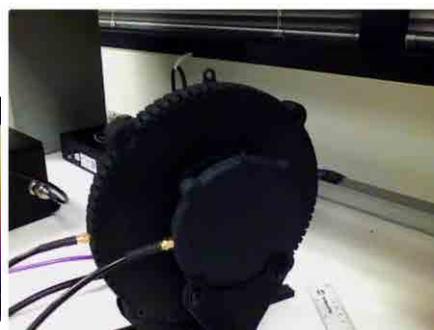
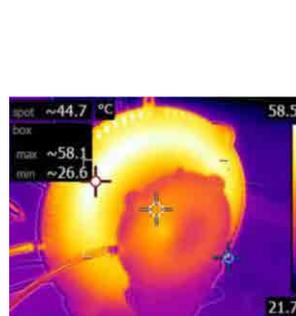
AMRに求めるコンセプトは何だろうを見つめ直す



2

Wireless Charger

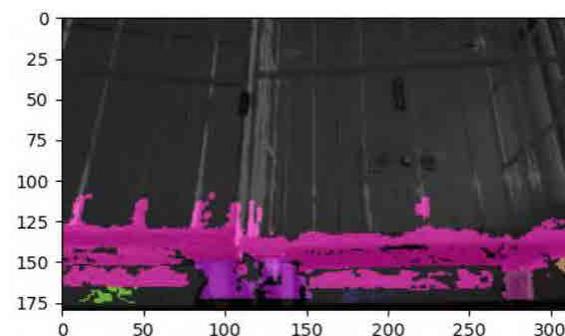
優れたSU企業との提携で早急にPoC実施に至った



3

画像AI系SUとの業務提携

AIを取り入れた画像分析手法を共同開発



4

サポートツール

異業種で実績のあるロボットサポートツールの導入



オープンイノベーションに至らなかった事例

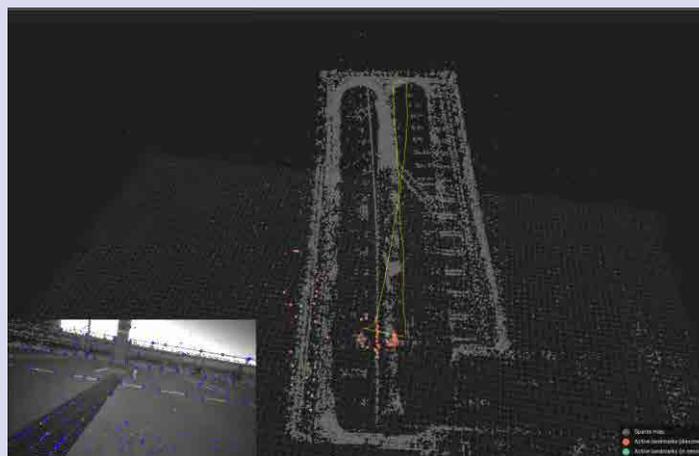
タグによる位置測位

広大なエリアにおけるAMR 位置情報を安価な外部デバイスのみで取得したかった



Visionによる自己位置推定

広大なエリアにおけるAMR 位置情報をカメラのみで取得したかった



目に見えないマーカー

小売店に合っても違和感のないマーカーでの運用をしたかった



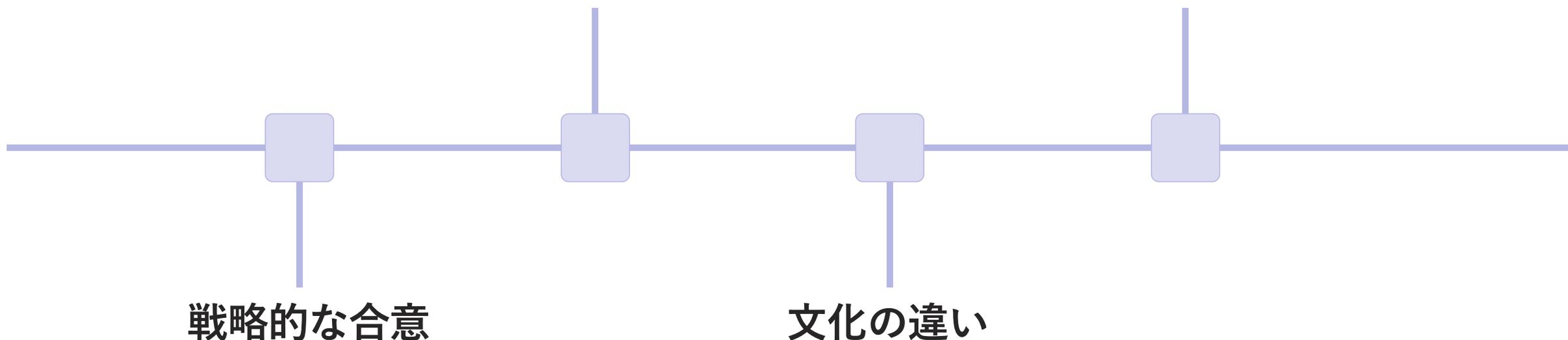
オープンイノベーションを導入する際に 考慮すべきこと

法的課題

知的財産権や契約の問題が生じた場合、
トラブルにならないよう対策を取る

実行段階の課題

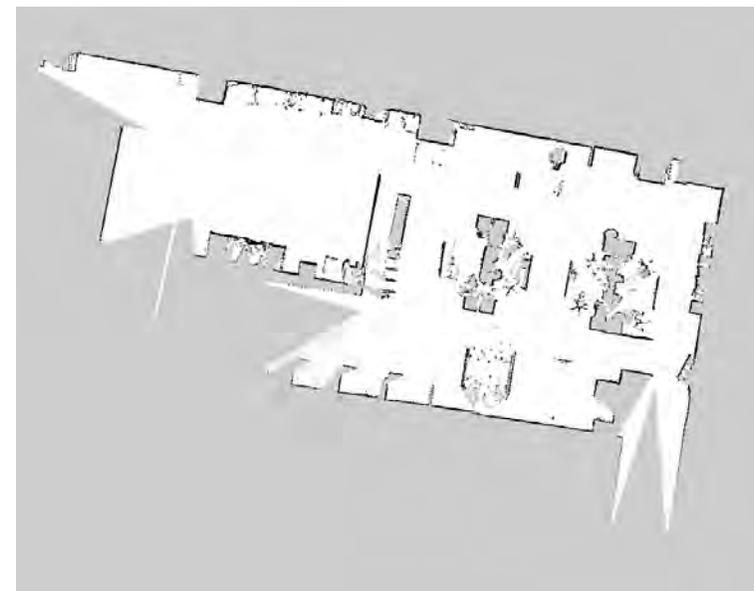
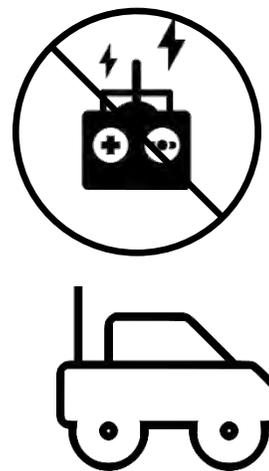
プロキュアメントの変更やリソースの
重点投入が求められる



パートナーとの戦略的合意を明確にする

異なる経営文化やビジネス観念を理解する

オープンイノベーションの今後の展望



商品のカテゴリ認識

暗所でのわずかな光のもとで、

カゴ車に搭載されている商品カテゴリを認識する方法

容易なMap生成

数百店舗分の現場地図を容易に生成する方法

F U J I は市場に求められるアイデアやソリューションを共創するパートナーを
継続して探しています！

